



先生の声
「子ども主体の学
び」を創るために

緑が丘東小学校
阿部 直 先生

本校では、「自由進度学習」を「マイペーススタディ (MPS)」と呼んでいます。これは子どもたちへのアンケートをもとに付けたものです。

単元計画を作る際は、子どもたちが、自分のために自分にあった「学習方法」「ペース」「学習場所」「学習課程」を選択できるようにしています。

また、うまくできないこと、分からないことなどについては、友達に聞く姿も見受けられ、協働的な学びにもつながっていると感じています。

「自由進度学習」とは、子どもが自分のペースで進める学びのことで、一定の約束事の下で、子ども自身がオリジナルの学習計画を立て、さまざまな教材を使ったり、実験などの活動をしたりしながら、自力で学びを進めていきます。

学校の授業では、特定の単元での学習方法として、自由進度学習が行われることがあります。

学びの過程で、友達と協力し合い、互いに刺激を受けながら深く学ぶことをめざす中で、自分の得意なところは早く進め、苦手なところは時間をかけてじっくり学ぶので、より効



▲授業中にさまざまな学習形態が同時に進行する自由進度学習の様子

自由進度学習

率的に学習を進めることができません。



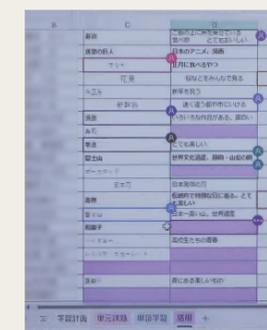
先生の声
生徒の声を聞き、
どうすれば良いかを
一緒に考える

自由が丘中学校
長田 江里 先生

担当する授業では、生徒がそれぞれの考えをタブレットに入力し、生徒は一覧から他者の意見を参照したり、質問したりしています。

また、進捗状況をタブレットで確認できるため、サポートが必要な生徒をより見つけやすくなりました。

学習中の生徒は、一人で考える場面では自分の考えをまとめ、共有する場面では似た意見や興味のある意見を持つ子に質問するなど、進んで学習に取り組む姿が見られます。



▲生徒が入力した考えはクラス内で共有され、お互いの意見を参照できる



▲周囲と考えを共有しながら、自分の意見にさらに磨きをかけていく

「協働的な学び」とは、学習者が目的意識を持って話し合いなどを重ねる中で、学びを深め、自己の課題を解決していく学びの過程のことです。

従来であれば同じ場所に多くの生徒を集めて実施する必要がありました。ICT環境の整備が進んだことで、手元のタブレットで周囲の意見

を確認できるなど、効率性の高い協働学習ができるようになりました。

生徒が協力しながら一つのテーマと向き合うことで、従来の受動的な授業では養うことが難しかった、問題解決能力やコミュニケーション能力、発想力を培いながら成功体験を重ねることが出来ます。

ICTを活用した「協働的な学び」

これからの時代の 新しい学びのカタチ



問 (市)学校教育課 学校指導係

これまでの学校教育では、一律の目標のもとで、同じ内容を全員で学ぶことが多くありました。

この仕組みは、高度経済成長期において、日本の経済発展を支えるための人材育成に大きく貢献しました。

しかし、近年、少子高齢化や社会の急激な変化が進む中で、産業構造の変化や社会の多様化、生活スタイルの変化など、従来の仕組みだけでは対応できない課題が増えています。

これからの学校教育では、個々の子どもたちが持つ異なる能力や特性を尊重し、それらを伸ばすことで、より多様な才能が社会に貢献できるようにする必要があります。また、人とのつながりの中に、幸せや豊かさを感じられる教育活動を展開していくことが求められています。

そこで、三木市の学校では、他者と協力し、自ら進んで問題を解決する力を持つ人材の育成をめざしています。

ここでは、現在、三木市が進めている教育の方向性や、教育現場で徐々に展開されている学習方法を紹介します。

急速に進む子どもの多様化

子どもの多様化に対応するため、子どもたちの学び方や能力を考慮した柔軟な教育課程や授業づくりが求められています。

多様化の一例

【出典】(市)学校教育課調べ

	令和元年	令和5年
全児童生徒数	5,508人	5,111人
学習面・行動面で特別な支援が必要な児童生徒の割合	4.4%	6.9%
外国人児童生徒の割合	1.2%	1.9%

子どもたちの特性や関心・意欲はさまざま

- 話すこと・聞くこと・書くこと・読むことが得意
- 文字・音・映像などの情報の扱いが得意
- 興味や関心が拡散しやすい
- 特定の分野に極めて高い好奇心や集中力を示す
- 音やダンスで表現することが得意

未来を創る学力育成三木モデル

